

「教職課程における質保証・向上に係る取組の調査研究」

調査研究の概要

◆課題認識

- ・「新たな教師像」に整合した教員養成のために、教職課程の改革が求められている。
- ・そうした教職課程の教育内容の充実・発展のために教職課程の質保証が求められている。

◆調査研究の目的

- ・教員養成課程の現状把握。
- ・平成27年12月中教審答申が示す教職課程の質の保証・向上に係る諸提言への各教職課程の取組状況等の把握。

- ・法令由来事項である「情報公表」への取組状況の把握。

- ・グッドプラクティスの紹介。
- ・教職課程の質保証のあり方に関する提言。

◆調査研究の方法

- ・全国の教職課程（学士課程）を有する大学に対するアンケート調査。
- ・国内大学、教育委員会、米国質保証機関への訪問調査。
- ・有識者による議論。

調査研究の成果

◆アンケート調査（回答率82.7%）の結果から浮かび上がった課題

- ・教職課程の目的、養成を目指す「教員像」の共有に関わる課題。
- ・「教員育成指標」と各教職課程の養成を目指す「教員像」との整合に関わる課題。
- ・教職課程担当教職員に対するFD、SDの必要性に関わる課題。
- ・教職課程の内部質保証の確立に関わる課題。

◆国内大学への訪問調査から得られた成果

- ・教員就職で実績を残している大学では、学校現場研修の採用や正課内外の教員採用対策、特徴的なFDなど、様々な取組がなされている。
- ・またそれらの大学では、地元の教育委員会や学校との信頼関係の構築に配慮を行っている。
- ・教職課程を対象とする第三者評価については、断定的に否定する大学はなかったものの、業務上の負担を危惧する意見が多い。

◆教育委員会（大阪府、福岡市）への訪問調査から得られた成果

- ・教育委員会では各教職課程に、「教員育成指標」を教員育成のための視点・基準の一として活用すること、同指標の意義を周知することを期待している。

◆米国CAEP等への訪問調査から得られた成果

- ・米国においては、課題を抱えながらも分野別第三者評価の一としての教職課程のアクレディテーションが定着しており、教育機関も真摯に対応している。
- ・そのアクレディテーションでは、エビデンスに基づいた内部質保証を重視している。

教職課程の質保証に関わる提言

◆内部質保証について

- ・教職課程の質保証は、まずは各教職課程自身の内部質保証で行われるべきである。その際、大学レベル、教職課程レベル、授業レベルでこれを構築することが考えられる。

◆外部質保証について

- ・教職課程の外部質保証は、機関別認証評価の枠組みの中で行うことが考えられる。
- ・教職課程固有の分野別評価に関わる事柄には、当面、微細に亘っては関与しないが、引き続き検討を続けることが必要である。